

主日ズーム礼拝順序

司会 古野明美
 証詞 北 博
 奏楽 録 音

前奏 Prelude

讃美 Hymn **81 番**(主の食卓を囲み)

聖書 Script **マルコによる福音書 1 章 40-45 節**(新 63p)

祈祷 Prayer

主の祈り C Lord's Prayer C **93-5C**

献げ Offering

報告 Report

証詞 Testimony **「コロナ時代の聖書の読み方」**

祈祷 Prayer

讃美 Hymn **43-3 番**(主よ、おいでください)

懇談会 Informal discussion

祈祷 Prayer

応答 Response roba1970@purple.plala.or.jp

今年の聖句

『わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。』ヨエル三の一

今週の聖句

『さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。』マルコ一の四〇

✦本日の集会 (Zoom ID 「607 777 8018」PW 「roba1970」)

✦来週の集会

主日礼拝・待降節(Net) 11 月 28 日(日)午前 10 時半

証詞 賈 晶淳氏

聖書研究会(Zoom) 12 月 1 日(水)午後 7 時半

聖書 ネヘミヤ記 12 章 担当 柳下千恵子氏

「ろば」を読む会(Zoom) 12 月 3 日(金)午後 3 時

「ろば」29 号、30 号(H.P 掲載)参加自由

✦案内と消息

富田(木田)牧子氏チェロコンサート 11 月 26 日(金)

近江楽堂(15:15、19:00 開演) 前売 4 千円(03-6317-8916)

✦特別献金(献金送り先 郵貯口座 10120-92486841 日本基督教団百人町教会)

野呂幸子氏(教会活動・アジア基金のため)

クリスマス献金 98,000 円(7 口、予算 90 万円)

✦先週の集会報告 女子男計 席上献金

主日礼拝 11/14

聖書研究会 11/17 3 4 7

ろばを読む会 12/3

パンをさく会 12/23

✦12 月礼拝・会員日誌担当

	司会	証詞	奏楽	受付・献金	会員日誌
5	泉谷五十鈴	賈 晶淳(Zoom)			小川ひとみ
12		賈 晶淳(Net)			木村真理子
19	赤尾泰子	賈 晶淳(Zoom)			空閑厚樹
26	新谷照子	出席者(Zoom)			権田一正

集会場所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-13 東京家政専門学校 2 階 <http://www.hyakunincho-church.com> 携 090(6176)5403

連絡先 〒162-0066 新宿区市谷台町 14-1-701 賈 晶淳(カジヨンス) Tel/Fax 03(6273)2930 E-mail roba1970@purple.plala.or.jp

◇第 11 回日韓宣教協議会に参加して◇

小川ひとみ

14 日の礼拝後、ソウル老会と北支区との宣教協議会に ZOOM で参加しました。2 年前にお世話になったソウルの方々との画面上で再会が出来、音声もありの zoom に感謝しました。テーマは「パンデミックとキリスト教-岐路に立つ教会」ということで、礼拝、共同祈祷、双方から 3 教会のそれぞれの現状と取り組みの発表、質疑応答がなされ、予定の 3 時間はあっという間に過ぎてしまいました。再来年は対面で、もっと長く話し合いたいものだと思っておりました。

韓国側の発表を聴くと、積極的に地域に働きかけている姿勢が「地の塩」という御言葉にぴったりの働きだと思われました。ことに、東京で言えば新宿にあると言えるような教会が、地域社会と共にソウル市と絡み合っており、農業活動をしているという報告には、とても驚きました。北支区側でも王子教会の子ども食堂の取り組みが話されましたが、日本の教会は(と、一括りに言ってしまうことには抵抗もありますが)コロナに翻弄され、未だそれぞれが内を守る姿勢にあるような気がしました。ハード面、ソフト面共に教会内でのコロナ対応は大切なことです。けれど、今後来る with コロナという新しい社会において、教会はそれぞれが置かれた場でそれぞれが与えられた恵みを活かし、その新しい社会に生きる全ての人と、どのように関わるかを見定める時期が来ていると思われました。

ソウル側の発表の中で、午前中礼拝の証詞で賈先生が、「少しでも無理をする。結果はすぐに見えるものではないが、続けて待つ。待つ時間を長く持つことで少しの無理も楽くなる。」「教会を形成していく責任を皆が持つこと」とおっしゃった事が頭に浮かんだ発表を紹介します。その教会は 40 年前に、反対する教会員もいたけれど、(これもざっくり東京に例えると世田谷の山の手から山谷地区のすぐ隣へというような移転)会堂を移しました。以後、その隣に住む人達に宣教をすることが目的ではなく、支援(お弁当配布など)も含めて共に生きる道を選びました。その地域の人の中からは新たに受洗する人も現れ、現在は同時刻に教会の 3 階と地下でそれぞれ礼拝をおこなっているという話でした。その礼拝のことで「何故同じ場所と一緒に礼拝をしないのか?」と質問をする人がありました。私にも「教会員はやはり区別したいのか?」と違和感がありました。答えは、「移転してから 40 年かかってここまで来た。教会員が心を開いている過程でもあり、地下の礼拝から 3 階の礼拝に出席する人が増えてきている。」ということでした。その答えに、40 年経っても受け入れられない人間の弱さのみまみましたが、そのような教会員も切り捨てないで教会は共に取り組み続ける、これまで 40 年諦めなかったようにこれからも願って待つという姿勢を見て、百人町教会のこれからを考えつつ、賈先生の証詞をあらためて反芻しています。そして、仲間と共になら、と力づけられた協議会でした。

◇会員日誌◇

西堂いづみ

10 月 26 日から 3 泊 4 日で沖縄に行ってきました。名護市安和(あわ)棧橋で土砂運搬船に赤土土砂を積載するダンプの搬入搬出に対する抗議行動と、カヌーで運搬船の周りで抗議行動をしていた最中に海保から暴挙を受け、3 度目の大怪我をした千葉和夫さんの裁判の応援です。今回の怪我は前胸部打撲、頸椎損傷、頭部座礁。

安和棧橋での抗議行動は国道の海側にある琉球セメントの土砂置き場の出入り口を通り抜けるダンプを止めるために、10 歩で渡れる所を牛歩で 30 歩く戦術。仲間の動きに合わせて、両方向から 1 列になってすれ違えばその間ダンプを止められる。これぞ「非暴力無抵抗、諦めない」の沖縄式運動だ。時夫氏は白状を上挙げて渡り、それが威力を発揮したのか「杖を持っている方、速やかに渡って下さい」と警備員から警告を受けた。そのうち機動隊員 9 人が敷地内から出てきて我々の動きは全く遮られた。その間 10 分で 50 台のダンプが通った。1 日に 1500 台通るところを抗議の人数が多ければ 700 台位に減らせるという。1 分 1 台の目標にすれば、辺野古の土砂投入をそれだけ遅らせることが出来るのだ。今回、沖縄の人たちの忍耐強い抵抗運動を少し経験しただけで自宅に戻りネットで辺野古の情報を見ると理解度が全く違うのに驚いた。少人数で短期間でも「安和棧橋に集まれ」とアピールしていく必要を強く感じた。沖縄の明日の平和のために。千葉さんの裁判は那覇地裁で傍聴人 23 人。その後の報告集会では 42 人が集まった。彼は今も後遺症に悩まされているが口頭陳述をした際、背中にピンピン圧力が来たから頑張れたと言っていました。

弁護団は 9 人。そもそも海保がカヌーチームの行動を規制する法的根拠がないのだという所から争うとの方針も示された。国側は、千葉さんを負傷させるようなあたりではない、適正な行為だったと主張しているが、教団佐敷教会の金井創牧師が撮影した証拠になるビデオもあり、云い逃れを許さない追及をしていくことになる。